



第3号
発行：諏訪形自治会
会長：細川義雄

「寿賀の会」行事内容変更について

福祉部長 岩崎晴子
例年祝賀会を開催していましたが、コロナ禍のため今年を対象者一人当たり千円分の商品券（ツルヤの五百円券2枚）を九月十三日に自治会から贈呈致しました。隣組長を通じて贈呈させていただきましたが、対象者でありながら受け取っていない方がいらっしゃいましたら、福祉部長までご連絡願います。

対象者は左記の方です。

九月十三日現在、諏訪形自治会員世帯の方で令和三年四月一日までに満七十五歳以上となる方（昭和二十一年四月一日までにお生まれになった方）。

諏訪形地区の防災について

これから台風シーズンとなり、年々台風が大型化しており、この諏訪形地区においても防災意識が高くなっております。そこで、諏訪形防犯・防災協議会会長の小林久敏氏と上田市の担当課に同じ三つの質問をして回答を得ることができました。今後の防災の参考にしてください。

「質問①」金窓寺川沈砂池に五百坪程の調整池を上田市で造るということですが、どのような効果がありますか？

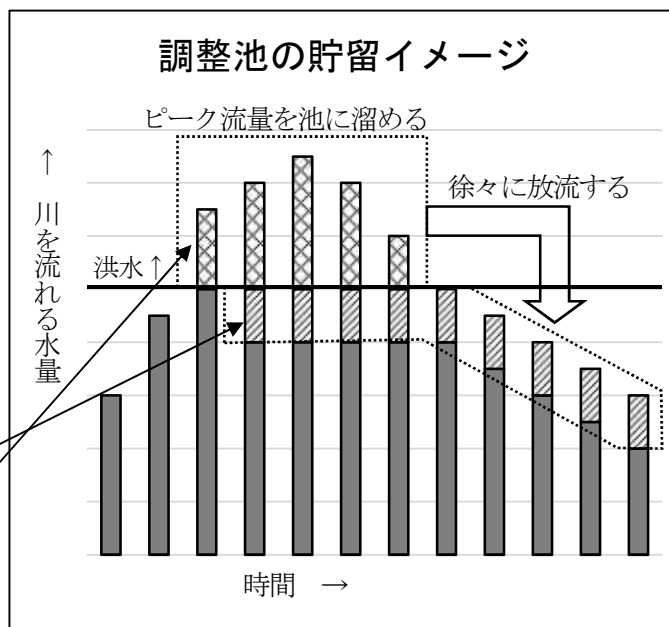
「回答①」諏訪形防犯・防災協議会会長からの回答
減災目的に対応する十分な効果が見込めるため、早期の着工に期待します。

上田市土木課からの回答

現在、金窓寺川の沈砂池の隣接地に約四千㎡の水量（小学校のプール約十個分）を貯められる調整池を計画しています。この調整池の目的は、金窓寺川に一気に流れ出た雨

水を一時的に貯留し徐々に放流することにより、下流域の浸水被害を軽減させるものになります。

調整池の貯留イメージ



台風やゲリラ豪雨に際しては、グラフのこの部分があふれて、道路や宅地に流れ込んでしましますが、調整池を整備することにより、あふれる部分を一時的に貯留することができます。池に貯留した雨水は、グラフのこの部分まで絞り込み徐々に放流します。

昨年の台風十九号では、強い雨の状態が長時間続き、上田の観測所で二十四時間雨量が百四十ミリメートル（1年間雨量の約7分の1）を超えたことから、過去にない被害が発生しました。このような規模の雨に対しては、今調整池を整備することにより洪水ピークを後にずらすことができます。避難や土嚢の準備などの越水対策の時間を現在より確保することができます。

なお、強い雨が短時間のゲリラ豪雨に対しては、一時貯留の効果が発揮できますので、これまでの洪水状況に比べ大きな改善が図れます。また、大雨のたびに地元の皆様にやっていただいている沈砂池の流木等撤去作業の負担も軽減されます。

「質問②」金窓寺川上流（須川へ登っていく途中の河川）に昨年の台風十九号や今年の七月豪雨で発生したと思われる土砂崩れが数カ所見られますが、今後豪雨が続き土砂崩れとなつて下流に押し寄せる危険が高いと思われます。対策の検討はしているのでしょうか？

「回答②」諏訪形防犯・防災協議会会長からの回答
城下地区全体の要望の中で、市及び県に対して継続的な要望を毎年行っています。

上田市土木課からの回答

金窓寺川では、谷止工（治山堰堤）を複数整備して沢筋の安定を図る対策をとっていますが、大雨や強風による斜面の土砂崩落や倒木など、川の流れに支障が出ている箇所があります。市では、影響が大きいと予想される箇所を優先的に対応して、今年は悠生寮より上流側で、県道の下を抜ける暗渠の手前にあつた巨石の撤去を実施しています。

また、上流の須川湖では、大雨時に備えて事前に水位を下げておき、池上流部の雨水について貯留機能を持たせることになりました。これにより、一気に出水する雨水を抑え、土石流などのリスク軽減を図ります。さらに、須川湖の低水位管理を確実にを行うため、今年度監視カメラと水位計の設置を予定しています。

なお、森林には洪水防止や崩壊防止の機能もありますので、地域の皆様にも適切な維持管理をお願いし、一体となった水害防止に努めます。

「質問③」諏訪形公民館、荒神宮、城下小学校及び第四中学校が避難場所となっていますが、この4か所がすべて不適格となった場合、どこへ避難すればよいのですか？

昨年の台風十九号時には、小牧山公園やツルヤ神田店駐車場へ車で避難した人がいましたが、安全ですか？

「回答③」諏訪形防犯・防災協議会会長からの回答
千曲川決壊等における避難場所については、一般的な地震における避難場所の設置ではなく、大型台風等の襲来により河岸段丘の低地にある立地を踏まえ、市に対しては災害に見合った開設を要望しています。

上田市危機管理防災課からの回答
平成三十年十月作成の「諏訪形自治会版 自主避難計画」に避難場所として掲載されています。諏訪形公民館外三箇所

については、同計画にも掲載されている「千曲川洪水ハザードマップ」において、浸水想定区域内に位置しています。市としては、河川の増水による洪水被害の発生の恐れがあり、避難を呼びかける場合には、浸水想定区域外に所在する指定緊急避難場所を開設することとなります。

市が、避難を呼びかける情報を発令した場合は、必ず開設する指定緊急避難場所も併せてお知らせします。(上田市防災メール登録をしていれば、即メールでお知らせしますので、ぜひ登録をお願いします。)お住まいの地域内に限らず、開設する避難場所への避難を検討してください。

なお、現在国等では、新型コロナウイルス感染症の感染リスクの回避を踏まえ、安全な地域にお住いの親戚や知人宅など避難場所以外への避難(分散避難)の検討を提唱しています。

また、併せて、ハザードマップを活用しながら、一人ひとりが取るべき避難行動を判断できるよう、「避難行動判定フロー」を作成し、平常時から考え、備えとしておくことを呼びかけています。

市では、このような新たな避難の考え方を、広報うえだ(本年度の八月号)に記事を掲載し、市民(読者)に対して周知しています。

「諏訪形自治会版 自主避難計画」においても、自主避難の基準をはじめ、親戚や友人宅など安全な場所への早めの避難、ご家族の中で万が一の際の避難方法に関する検討を行うことなど、国等の動きに先駆け進められていることから、引き続き取組を推進いただくようお願いいたします。

避難行動は、「命を守るための行動」であり、避難場所への避難に限らず、近隣の安全な場所や建物等への避難も危険を回避するための選択肢の1つと考えられます。

そのため、ハザードマップや自主避難計画を活用しながら、お住まいの地域にどのような災害の危険性があるのか、それに対してどのような避難行動をとればよいのか、さらにどのタイミングで避難行動をとるのがよいのか、を予めご家族の中で話し合い、考えておく必要があります。

併せて、お住いの地域の中に、例えば河川の増水であれば高台など、避難場所以外に安全を確保できる場所を検討しておいていただきたいと考えております。

なお、車による避難については、昨年の台風災害の教训や新型コロナウイルス感染症対策を踏まえ、一時的な安全を確保するうえで有効な避難方法の1つとして紹介されています。

市としては、有効性は認める一方、エコノミークラス症候群などの健康被害や、交通渋滞に伴う救出活動等に支障をきたすことなど懸念される面もあるため、最善の策とは言えませんが、短期間に限っての身の安全を確保する避難方法として検討いただようお願いいたします。

(以上、危機管理防災課の回答)

小牧山霊園やツルヤ神畑店駐車場への車での避難は、自己判断ケースとなります。やむを得ずこのような場所に避難される場合は、危機管理防災課の回答の注意点を十分認識し対応してください。(諏訪形自治会金井総務部長の意見) この他に諏訪形防犯・防災協議会会長へ公民館へのテレビの設置について質問したところ、ぜひ設置して欲しいとのことでした。また、昨年の台風で公民館に避難をした人からも設置の要望がありましたので、今年度防災備品補助金対象として要望書を上田市へ提出しましたので、来年度中には設置できる予定であることを申し添えます。

多目的広場とその駐車場の使用について

公民館南側の多目的広場とその駐車場において、スケートボードで遊んでいる人がいて、非常に危険である旨の住民からの声がありました。この場所は従来からスケートボード等の危険を伴う遊具の使用は禁止となっております。

また、多目的広場のフェンスの扉が何者かによって壊されてしまいました。先般、業者の方に修理していただきました。修理費は、今回業者様のご厚意で無料でしたが、通常は壊した方に弁償していただくことになります。

ここは、諏訪形の役員の方が何年もかけて色々な所に働きかけ、やっと造り上げたものです。大事に使いましょう。



↑壊された扉



↑修理された扉

「燃やせないゴミ出し日」変更について

「燃やせないゴミ出し日」が、十月より月二回(第一水曜日と第三水曜日)となりますので、お間違いないように願います。その他の水曜日に出された場合は、お持ち帰りいただくようになりますので、ご注意ください。

国勢調査について

五年に一度の国勢調査が9月に行われています。

地元から選ばれた調査員が、各世帯のポストに調査書類を投函しますので、インターネット(スマホOK)での回答をお願いします。インターネット環境がない場合は、返信用封筒で回答してください。コロナ禍のため訪問面接は原則いたしません。

大型生ごみ処理機利用促進について

総務部長 金井保芳

諏訪形の多目的広場のそばに設置してある大型生ごみ処理機の利用者の会員数は現在四十二名で、実利用者は二十名程度です。一日の平均投入者は三〜四人で少ない状況です。私も利用者の一人なのですが、実をいうと当初続かなかと思っていました。でも、やり始めたら、これが意外と続くもので、ほとんど毎日のように投入しています。二十四時間何時でも受け入れ可能で、専用バケツと鍵を窪田会長(☎090-7005-9891)から頂くだけです。生ごみは肥料になり無償で配布してくれます。「利用者の会」の運用報告によると、八月の一月間の投入回数は133回、投入量25.15kgで、三月に比べ投入量は2.5倍に増えているとの事です。一方、クリーンセンターでは、「生ごみ出しません袋」三十枚を無料で配布する事も行っています(申請と報告書の提出が条件)ので、皆さんも試してみませんか！

編集後記

この間、自治会員の方から通勤道路に樹木の枝がはみ出して、交通の妨げになるから伐採して欲しいとの依頼がありました。でも、そこは所有者不明土地で承諾が得られません。登記簿で住所が判明したので、行ってみると空き家でした。さてどうしたものか…。(編集委員 金井)